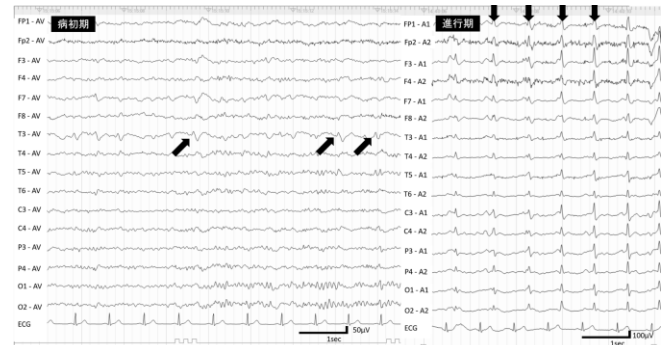
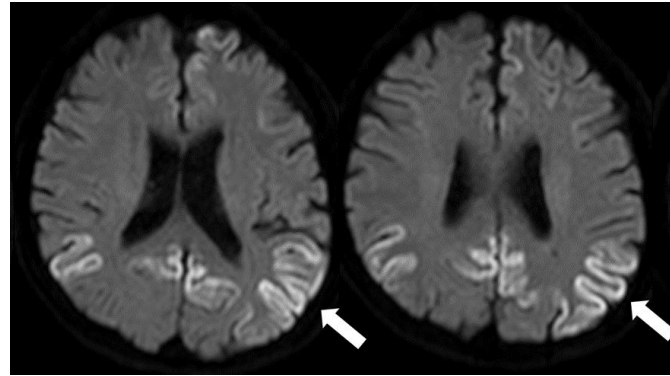


MM2皮質型孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病の 初期の脳波の特徴

研究分担者：東京医科歯科大学大学院脳神経病態学分野(脳神経内科) 三條伸夫

後方視的に8例のsCJD患者を検討し、MM2皮質型(MM2c)群4例とMM1/classic CJD群4例で病初期からの脳波を比較検討

	MM2c (N=4)	MM1/classic CJD (N=4)	
初回脳波			
基礎律動の徐波化	3(75%)	2(50%)	
突発波	限局性鋭波または棘徐波複合	4(100%)	0(0%)
	全般性鋭波	0(0%)	3(75%)
	PSWCs	0(0%)	1(25%)
フォローアップ脳波			
基礎律動の徐波化	4(100%)	4(100%)	
突発波	限局性鋭波または棘徐波複合	2(50%)	0(0%)
	全般性鋭波	0(0%)	1(25%)
	PSWCs	2(50%)	3(75%)
脳MRI上の異常信号域			
皮質	4(100%)	4(100%)	
基底核	0(0%)	4(100%)	
視床	0(0%)	0(0%)	
髄液検査			
T-tau 蛋白上昇	1(25%)	4(100%)	
14-3-3 蛋白陽性	3(75%)	4(100%)	
RT-QuIC 陽性	3(75%)	3(75%)	
遺伝子検査			
Codon129 Met/Met	1(25%)	4(100%)	
Codon219 Glu/Glu	1(25%)	4(100%)	
病理解剖	1(25%)	1(25%)	



解説

1. MM2c群はclassic CJD/MM1群と比較して、初発症状の出現から初回脳波撮影までの期間が有意に長く、緩徐な進行を示唆している
2. MM2c群の病初期の脳波では、MRI上高信号を認めた皮質に一致した領域の限局性鋭波、棘徐波複合を認め特徴的と考えられた
3. MM2c群では脳波上PSDを2例(50%)で認めたが、PSD出現までは発症から平均42.5カ月かかっており、病初期の診断では参考にならない